

第 116 話<攻防 (3)>の要約と参考資料

第 116 話<攻防 (3)>の要約

1953 年 9 月、宮崎県は調査団を組織して亜ヒ酸焙焼炉建設に反対する土呂久住民の説得に乗り出しました。調査団は炉建設予定地で鉱山幹部の説明に納得。孤立した和合会はくじけることなく、総会で「試験焼きにも反対」を決議、会長らが所長宅に抗議にでかけます。

第 116 話<攻防 (3)>の参考資料

1 1 6 - 1 終戦直後の和合会の議事

終戦をはさむ役員

昭和 19 年 2 月 25 日役員改選

会長 佐藤十市郎 / 副長 佐藤藤太 / 会計 佐藤三代士 / 幹事 佐藤清八、佐藤助

昭和 22 年 2 月 14 日役員改選

会長 佐藤十市郎 / 副会長 佐藤助 / 会計 佐藤三代士 / 幹事 佐藤藤太

評議員 佐藤進、佐藤竹松、佐藤清助

昭和 25 年 3 月 12 日役員改選

会長 佐藤助 / 副長 佐藤十市郎 / 会計 佐藤三代士 / 幹事 佐藤藤太

評議員 佐藤進、佐藤竹松、佐藤清助

昭和 28 年旧正月 24 日

会長 佐藤竹松 / 副会長 佐藤藤太 / 会計 佐藤三代士 / 幹事 佐藤健蔵

評議員 佐藤平作 / 清八 / 一男

女性の出席者の数

戦争中の女性の出席者数

16 年 11 月 26 日 : 38 人中女性 3 人

17 年旧正月 24 日 : 37 人中女性 5 人

17 年 5 月 26 日 : 36 人中女性 4 人

17 年 11 月 25 日 : 35 人中 3 人

18 年 2 月 28 日 : 44 人中女性 4 人

18 年 5 月 25 日 : 36 人中女性 5 人

18 年 11 月 25 日 : 36 人中女性 2 人

19 年 2 月 25 日 (?) : 45 人中女性 2 人

20 年 5 月 25 日 : 37 人中女性 3 人および「代人」5 人 (うち 1 人女性)

終戦直後の女性の出席者数

昭和 20 年 11 月 25 日：42 人中女性 10 人

昭和 21 年 5 月 25 日：38 人中女性 4 人

終戦直後の和合会の主な議題

昭和 20 年 11 月 25 日定期会開催

- 一、公会堂修繕ノ件
- 一、地藏堂改築ノ件
- 一、焼畑奨励ニ関スル件

昭和 21 年 5 月 25 日定期総会開催

- 一、県公造林人夫実行ノ件（* 県行造林が正しい）

昭和 21 年 11 月 25 日定期総会

- 一、県公造林下刈賃

昭和 22 年 2 月 14 日定期総会

- 一、各農家ノ耕作地ノ陰ヲナス木立除伐
- 一、消防ポンプ小屋移転ノ件

昭和 23 年 2 月 16 日定期会変更開会

- 一、配給酒処分方法に付いて
- 一、各区長廃止ノ件
- 一、蔭切りに関する件

昭和 22 年 12 月 5 日定期総会

- 一、長木山杉ノ下伐リニ関スル件
- 一、電線張替ニ関スル件
- 一、道路修繕ノ件
- 一、納税係選任ノ件

昭和 23 年 3 月 4 日定期総会（佐藤茂宅ニテ）

- 一、電線張替ノ件
 - 一、一般農作物供出ニ関スル件
 - 一、報恩講ニ関スル件
 - 一、泉福寺本堂建築材料寄附ノ件
 - 一、砒山ノ煙害ニ関スル件
- 各組ヨリ一名宛ツ交照委員ヲ砒山ニ出シ交照スル事ニ決定

1 1 6 - 2 戦後亜ヒ酸製造再開までの和合会議事録（1948 年～1953 年）

昭和 23 年 3 月 4 日 定期総会 佐藤茂宅

一、砒山ノ煙害ニ関スル件

各組ヨリ一名宛ツ交照委員ヲ砒山ニ出シ交照スル事ニ決定

(昭和 16 年から 29 年まで亜砒焼きはおこなわれていない。昭和 23 年ごろ、亜砒
焼き再開の話があったのか？ それとも戦前の煙害に関する交渉だったのか？)

昭和 28 年旧正月 24 日 定期総会 佐藤茂宅

一、鉾山ニ関スル件

亜砒酸製造釜設置ニ関シ会長ヨリ一般会員へ通告アリ

鉾山ヨリ所長以下三名出席シ新形製造法ノ説明等ヲナス

当件ニ付キ役場ヨリ村長出席ス

(戦後の亜砒焼き再開に向けて、鉾山から製造法を説明、岩戸村長も出席。)

昭和 28 年 7 月 19 日 臨時総会 公民館

一、亜砒酸製造ニ関スル件

決議 煙害の資料集め請願書作成

昭和 28 年 12 月 11 日 臨時和合会 公民館

一、土呂久鉾山ヨリ亜砒酸製造ノ件

何回モノ同伴ニ因リ試験^{ママ}焼ニテモ焼イテモラッテハ困ルト会長他一名(仲治)
鉾山ニ出向キコトワッテ戴ク事ニ決議ス

(鉾山が「試験焼きだから焼かせてくれ」と言ってきたことがわかる。和合会は、
試験焼きにも反対を決議。)

1 1 6 - 3 請願書の下書き

川原のメモ

佐藤竹松さんが保存していたのを没後 6 年たった 1978 年夏、竹松さんの長男正四さん
が発見した。「日章」の便せん 1 枚に鉛筆で書いてある。和合会議事録(昭和 28 年 7 月
19 日臨時総会)からみて、昭和 28 年 7 月～12 月に書いた反対署名の下書きと思われる。
正四さんが言うのに、「中間」の佐藤健蔵さんの筆跡に似ている。

請願書の下書き

「過去の悲惨なるアヒサン煙害に依る実情に鑑み土呂久鉾山中島鉾業所のアヒサン築釜
計画には地元民として絶対反対の意を表明し茲に連名にて署名捺印す」

1 1 6 - 4 焙焼炉建設現地調査団に関する新聞記事

日向日日新聞記事(昭和 28 年 9 月 13 日)

調査団地元説得へ / 土呂久鉾山の新焙焼炉建設

西臼杵郡岩戸村中島鉦山 KK 土呂久鉦山の新焙焼炉設置問題は煙害をおそれる地元民の反対にあい、難航を続けて来たが、県では 14 日から現地調査団を組織し地元民の説得に乗り出すことになった。

調査団は現在松尾鉦山で使っている農作物に無害であるという品川式焙焼炉を見学、調査して現地に赴くが、県総合開発審議会専門委員加藤三郎氏、宮大農学部教授田辺邦美氏をはじめ県工業、農業、林業各試験場の係官が団員となっている。

朝日新聞宮崎版記事（昭和 28 年 9 月 13 日）

土呂久鉦山の煙害調査 西臼杵郡岩戸村土呂久中島鉦業土呂久鉦業所（社長小宮新八氏、従業員 40 名）は昨年 7 月アヒ酸製錬のための試験炉を設置したいが、煙害を恐れる地元農民が反対、折合いがつかぬので仲介に立ってほしいと県に陳情していた。県は総合開発審議会専門委員加藤三郎氏（元満州鉦発理事）宮大農学部教授、田辺邦美氏ら調査団を 14 日から 1 週間にわたって現地に送り調査に当らせることにした。

朝日新聞宮崎版記事（昭和 28 年 9 月 20 日）

土呂久鉦業所の煙害状況を視察 西臼杵郡岩戸村の中島鉦業土呂久鉦業所の製錬所再建をめぐる煙突問題について宮大農業工学研究所田辺助教授、県労評代表らが 17 日現地を調査した。同鉦業所は大正 9 年備付けた反射炉からアヒ酸と次亜硫酸ガスが出て付近の煙害がひどかったため製錬再開に対し農民の反対運動が起ったもの。

会社側の話では、新設のばい焼炉はアヒ酸の回収率 99.5%しかも排煙量は毎分 0.082 立方メートルという微量、製錬所は海拔 30 メートルで現在の事務所より 90 メートル高い山中にあり、直接の被害が予想されるのは炉を中心に 50 メートルの半径内で、ほかに害は全然ないといっている。

同鉦山から出る銅と混合鉦はばい焼炉で焼くと銅の含有率 3%となり、回収されるアヒ酸は農薬原料となるので煙害問題さえ解決すれば有望な鉦業所だといわれている。

1 1 6 - 5 焙焼炉建設現地調査団の写真（1953 年 9 月 17 日）



- ①宮崎県：農務課・山之口末吉
- ②西臼杵支庁：支庁長・浜田邦夫、経済課長・塩津義夫、経済課主事・佐藤稲穂
- ③岩戸村：村長・伊木竹喜、職員・甲斐清夫
- ④土呂久鉦業所：所長・小宮新八、副所長・根本亨、採鉦課長・堀越武夫、労務係・佐保明、職員・古市鉄郎、職頭・丸岡袈裟治
- ⑤その他：宮崎大学農学部助教授・田辺邦美、県労評事務局長・田中茂、朝日新聞記者・岩本利佐男
- ⑥土呂久住民：佐藤竹松、佐藤十市郎、佐藤清八、佐藤茂、佐藤重男、佐藤操

116-6 和合会の決定を小宮所長に伝えたときのこと

佐藤仲治さんの話（1980年7月27日聴取）

竹松さん（和合会会長）が「小宮さんから返答を聞きたいと請求あり。どげもんか」と聞いて、それから結論としては「窯をつくらせてはいかん」。以前のような害はねえというけれど、「煙のたたんで鉱石の焼けるはずはねえ。焼けば害の出ることははっきりしとる。20万、30万の金に迷うて焼かせてはならん。もとのように喧嘩会になってしまう。絶対焼かせてはならん」との結論を出した。小宮さんに報告に行かなならんが、竹松さんが「俺一人では行かん。誰か連れのうち行かな」。それには、いちばん反対する地元の者が行かな、ということで、私が行った。私が役員だったわけじゃない。「頭だった茂さんが行かな」と言うたが、「連れのうち行くだけでいい。お前ついていけ」で、私に決まった。和合会の翌日、竹松会長と私と2人で、夜、小宮所長の家に行った。竹松さんが、和合会でこう決まった、と言うて、小宮所長は「地元の人が承諾できんなら、あきらめなしようがない」。小宮さんはおとなしい人で、力づくでもやろうという感じじゃなかった。喧嘩にもならんずく。お茶が出て、飲んで帰った。所長の家には、ミホが飯炊きに行っとった。ときたま鈴木社長が来たりする。